

# いわみざわの民話

## 第22回

いわみざわの民話は、平成9年に「いわみざわの民話」刊行委員会が発行しました。

### きつねの丸太物語②

医師はどうしても家に帰れないので、時間はどんどんたつてゆきました。とうとう鞍から鯨の骨でついていた小田原提灯の灯もきえてしまいました。医師は困って明治池の水門番人の家を起こしました。

「爺さん、爺さん起きておくれ。」  
「爺さんはびっくりに起きてきました。」

「おや、先生どうされた。さつきから馬を走らしていなさつたのは先生かね。」

「爺さん。どうしても家に帰れないのだ。さつきから馬を走らせているが、どうしても同じ所に出てくれないのだ。」

「それぢやきつねにいたずらされたのだらう。先生はきつねの丸太に腰をかけて休んだのだらう。タロウ、タロ

ウー、出てこい。1つほえろ。」  
とうとう後からアイヌ犬が出て来て、一声大きくワンワンとほえました。

「さあ先生、きつねも森に帰つたらう。わしがついてゆくと一緒に病院にかえりましよう。タロウや、ついてこい。」  
といい、それから爺さんの案内で神社の方を通って病院に帰ることが出来ました。



その後時々方おそくこの木に腰を

かけて休む人は行先が判らなくなるので、いつか村人は「きつねの丸太」と呼んでこの木には腰をかけて休まなくなりました。そのかわり、小さな丸太をその前に置いて小さな丸太の方に休むようになりました。

この丸太の根元の方は私が小学生時代までそのままに置かれてあり、中が大きな空洞になっていました。そして、犬をつれて行けば大丈夫、だまされることはないといわれていました。  
また、お供物をしてから休むとよいともいわれており、よくお供物がそなえてあったものでした。

《元》

第23回は「出かけられる神様」を紹介します。

発行・編集 岩見沢市総務部秘書課

#### ひとの動き 平成23年11月30日現在

●住民基本台帳	人	口	総数 89,484人(前月比 - 66)
			男 41,967人(前月比 - 37)
			女 47,517人(前月比 - 29)
世帯数	42,480	世帯	(前月比 + 12)

#### 岩見沢市役所

☎ 068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号  
 ☎ 0126-23-4111 ㊚ 0126-23-9977  
 ホームページ <http://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp>  
 ▶救急当番医ガイド ☎ 0126-23-5153  
 ▶消防テレホンガイド ☎ 0126-24-0119

この広報紙は道産間伐材配合紙を使用しています。